


令和7年度 第1回学校評価アンケート結果

爽秋の候、平素は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。令和7年度第1回学校評価アンケートを実施しましたので、結果と分析についてお知らせいたします。

令和7年度
京都市立京都京北小中学校
校長 高橋 秀延
〒601-0251 京都市右京区周山町中山 51
TEL 075-852-1133 FAX 075-852-1144





学校教育目標

自ら学び 共に励み 志をもって 未来を拓く 子どもの育成
～ かしこく やさしく たくましく ～

付けたい資質・能力

読解力 対話力

人権意識 実践行動力

自己指導 自己調整力

めざす生徒像

確かな学力を身に付け、志をもって、主体的に自己実現と問題解決に取り組む生徒

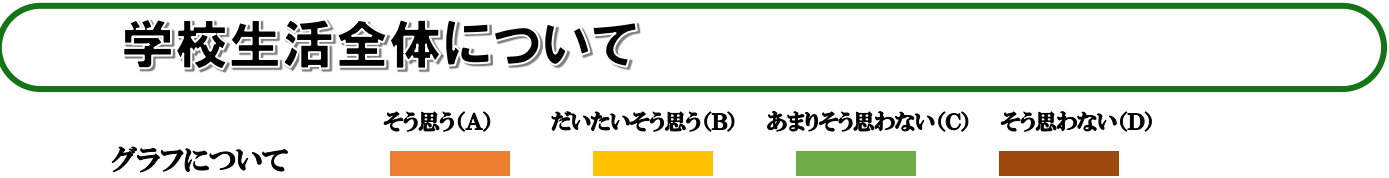
ふるさと京北を愛し、多様な価値を尊重する正しい人権感覚をもって、仲間と協働する生徒

心身の健康維持と体力向上に向けて努力し、調整しながら明るく粘り強く、しなやかに取り組む生徒

テキストを読み解く 考えをもつ 考えを交流し深める

人権についての知的理解 人権感覚 実行する力

自律 セルフコントロール 主体性 粘り強さ 調整



「1. 自分の決めた目標に向かって活動していますか」

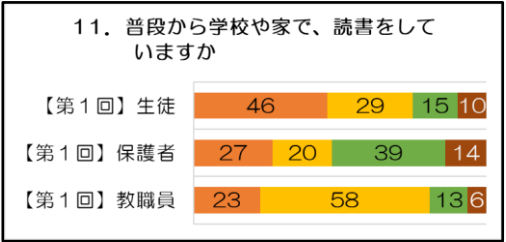
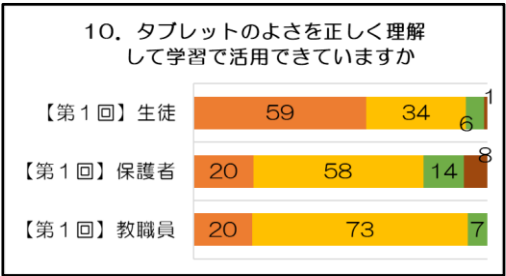
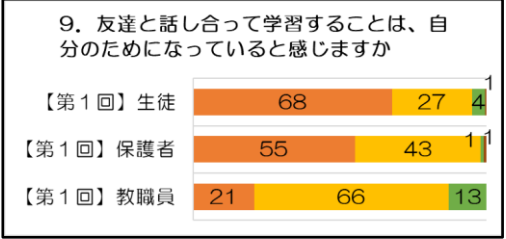
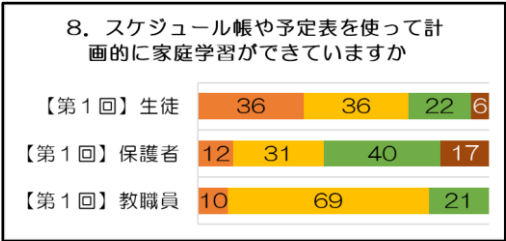
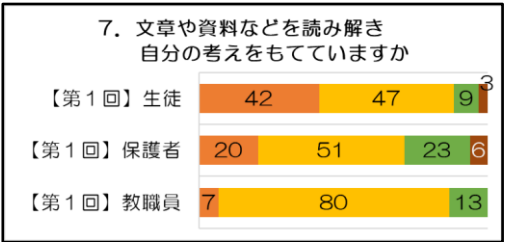
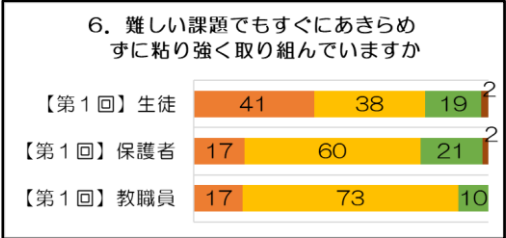
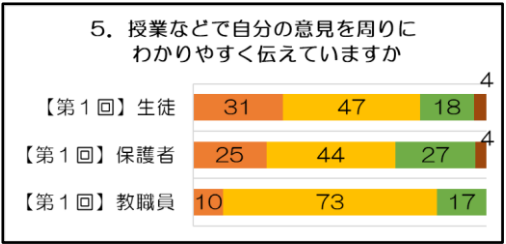
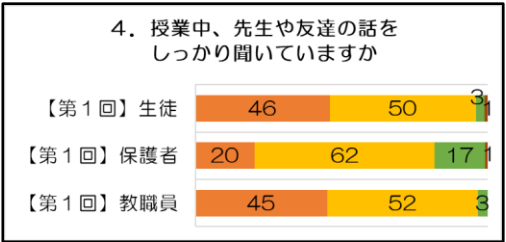
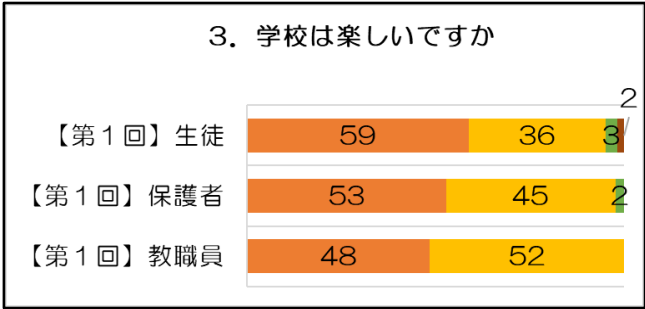
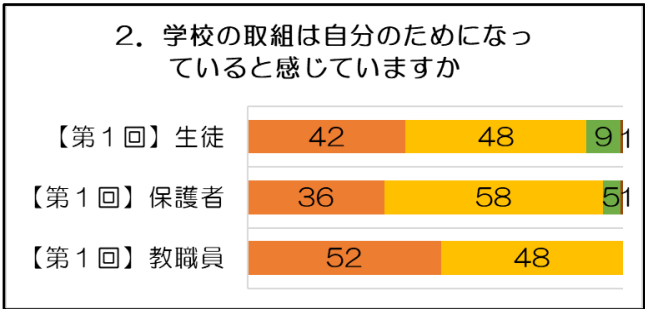
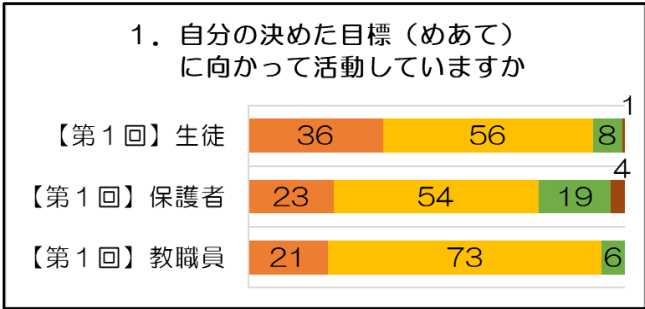
生徒の約9割が「目標に向かって活動している」と回答しており、昨年同様に前向きな姿勢が見られます。保護者・教職員の回答からも、生徒の取組が家庭や学校で認識されていることが分かります。今後も、生徒の目標が形だけにならないよう、振り返りや支援を通じて着実な成長を促していきます。

「2. 学校の取組は自分の役に立っていますか」

生徒の約9割が学校の取組が自分のためになっていると感じており、保護者・教職員も非常に高く評価しています。特に高学年では、委員会活動や行事を通じて責任ある役割を果たす機会が多く、達成感や自己有用感を得ている様子がうかがえます。教職員は、生徒が主体的に活動する場を計画し、努力や成果を意識的に評価することで、意欲の向上を支援しています。

「3. 学校は楽しいですか」

生徒の約95%が「学校は楽しい」と感じており、学習や行事、友人との関わりなど、日々の学校生活に充実感を持っている様子がうかがえます。保護者も、子どもが学校生活を前向きに過ごしていると感じており、教職員もほとんどの生徒が学校生活を楽しんでいると感じています。今後も、生徒一人一人が安心して過ごせるよう、教職員が日常の関わりの中で温かく寄り添い、笑顔のあふれる学校づくりを進めていきます。



確かな学力の育成について

「4. 授業中、先生や友達の話をしっかり聞いていますか」

「5. 授業などで自分の意見を周りにわかりやすく伝えていますか」

生徒の96%が「話をしっかり聞いている」、78%が「意見を分かりやすく伝えている」との回答ですが、保護者、教職員の中には「十分ではない」と感じる点もあるようです。これは単に話す・聞く技術だけでなく、考えを整理し、相手に伝える力を育てようとする指導者の期待も示しています。

本校では、国語科を中心とする各教科、総合的な学習の時間や道徳でも「対話力」の育成に取り組んでいます。授業では、発表や意見交流だけでなく、資料やスライドを使ったプレゼンテーション活動も行い、相手意識を持った伝え方を学ぶ場も設定しています。今後も丁寧に支援していきます。

「6. 難しい課題でも、すぐにあきらめずに粘り強く取り組んでいますか」

生徒の約79%、保護者の約77%が「粘り強く取り組んでいる」と回答しています。この質問は、学校教育目標に掲げる「自己指導力・自己調整力」に関わるものであり、自律・セルフコントロール・主体性・粘り強さ・調整力といった資質の育成を意図しています。個人やグループでの課題に取り組む中で、自分の得意・不得意を理解し、どう乗り越えるかを考える力を育てることに重点をおいて指導していきます。

「7. 文章や資料などを読み解き、自分の考えをもてていますか」

生徒の約89%が「文章や資料を読み解き、自分の考えをもてている」と回答していますが、保護者の回答とは差が見られ、読み解き考える力に課題があると思われることがうかがえました。読み解く力は、単なる読解技術だけでなく、情報を整理し、自分の立場を明確にする力でもあります。今後も学習活動を通して、生徒が自分の思考を深められるように支援していきます。

「8. スケジュール帳や予定表などを使って、計画して行動できていますか」

昨年度の結果を受けて、予定管理について丁寧な指導を続けていますが、生徒や保護者の回答からは効果的、習慣化という結果には至りませんでした。計画的に行動する力は自己調整力や自律性に関わりが深く、育成には時間がかかります。スケジュール帳や予定表の活用を通じて、見通しをもって行動する力を育てていきます。

「9. 友達と話し合って学習することは、自分のためになっていると感じますか」

授業では、話し合いや意見交換を通じて、互いの考えを深める活動を取り入れています。質問5で扱った「伝える力」と関連し、自分の考えを整理し、相手に伝える経験を積む場にもなっています。今後も、生徒が話し合いを通じて学びの意味を実感できるよう、活動の質を高めていきます。

「10. タブレットのよさを正しく理解して学習で活用できていますか」

使い方については、引き続き効果的な使用ができるように指導していきます。学習で使用する頻度も増えてきたので、破損につながらない丁寧な取り扱いを心がけるようご家庭でもお話していただければありがたいです。

「11. 普段から学校や家で、読書をしていますか」

読書は語彙力や思考力の向上、心の安定にもつながる大切な習慣です。学校では朝読書やメディアセンターの活用を通じて、子どもが本に親しめる環境づくりを進めています。家庭で、大人が本を楽しむ姿を見せることが、子どもの読書への関心を高め、習慣として根づくきっかけになります。家庭で本の話をする時間も、読書を身近にするきっかけになります。よろしくお願いいたします。

豊かな心の育成について

「１２．友達にいやなことをせず、相手の気持ちを考えて行動していますか」

「１３．仲間がこまっていたら、積極的に助けることはできていますか」

今回のアンケートでは、生徒の多くが「友達の気持ちを考えて行動している」「仲間を助けている」と回答しており、いずれも９０％以上が肯定的な結果となりました。この結果からも分かるように、日頃の学校生活の中で、困っている友達に声をかけたり、作業や当番を手伝ったりといった、自然な形で思いやりの行動が多く見られています。これまで本校では、異学年での活動や、生徒会による「ありがとうカード」の取組などを通して、互いのよさを認め合い、感謝の気持ちを伝える機会を大切にしてきました。こうした日々の積み重ねが、安心できる人間関係の構築につながり、アンケート結果にも表れているのではないかと考えています。今後も、子どもたちが互いに支え合い、思いやりの心を育みながら成長できるよう、温かい集団づくりを大切にしていまいります。

「１４．おはよう、こんにちは等、進んであいさつはできていますか」

生徒の９２％は挨拶ができていると回答しました。生徒会執行委員による「あいさつ運動」の成果が少しずつ表れてきているように感じます。日々の学校生活の中でも、あいさつを交わす姿が増えてきました。まだ声が小さい場面もありますが、気持ちのよいあいさつが自然にできるようになることを目指して、これからも継続して取り組んでいきます。

「１５．自分のよいところに気付いていますか」「１６」「１７」も含め

質問１５では、生徒自身が「気づいている」と答えた割合は低く、前回とほぼ同様の傾向でした。一方で、保護者・教職員（以下、大人）は「子どものよいところを言える」と高い割合で回答しています。この差は、自己肯定感の低さや自信のなさといった子ども側の要因だけでなく、大人の関わり方にも原因があると考えられます。

大人が思っている以上に子どもは繰り返し褒められることを必要としているかもしれません。その積み重ねによって、自己認知や自己肯定感が深まっていきます。このことは質問１６にも影響していると考えられます。生徒は将来について考えている割合が増えているものの、大人は「あまり考えていない」と見ている傾向があります。自分のよさを認知することで、「こんなことができるかもしれない」「こういう道もあるかもしれない」と、将来の選択肢が広がっていくのではないのでしょうか。

質問１７では、生徒の回答は比較的高めで、家庭での対話の機会是一定程度あると見られます。ここに「よいところ」や「将来のこと」を話題にする習慣が加われば、子どもが自分の価値を実感し、前向きな意識を育てるきっかけになると考えます。

こうした家庭での関わりと並行して、学校では、子どもたちのよさを見つけて伝えることや、進路指導を通して将来への意識を高め、見通しが持てるよう、今後も力を入れていきます。

「１８．相手に応じて、丁寧な言葉づかいができていますか」

生徒の９２％が「できている」と回答しており、授業での話し合いや発表を通して、丁寧な言葉づかいが身についてきた様子がうかがえます。一方で、保護者の評価はやや低めで、家庭での様子や基準の違いが影響している可能性もあります。今後も教職員が言葉づかいに配慮し、子どもたちの手本となるよう努めていきます。

「１９．困ったことがあったときは家族や先生に相談していますか」

生徒のＡ・Ｂの回答は７４％と前回と同様の傾向が見られました。相談にくさや自己解決の傾向など、背景は明確ではありませんが、学校としては、いつでも相談できる環境づくりと、相談があった際には丁寧に耳を傾ける姿勢を大切にしています。

健やかな体の育成について

健康・安全に関する項目では、全体的に良好な傾向が見られましたが、いくつか気になる点もありました。

まず、質問２０外遊び・スポーツについては、アンケート実施時期の気温が高かったこともあり、外で遊ぶ機会が限られていました。学校では、休み時間や昼休み、帯時間などを通して、運動や遊びの環境を整えています。

質問２１・２２早寝・早起きの習慣では、Ｃ・Ｄの回答が一定数あり、特に「早寝」は２８％、「早起き」は２１％の生徒が課題を感じている様子です。夜更かしの原因としては、家庭学習の長時間化や趣味・遊びへの没頭が考えられます。学校では保健指導を通して睡眠の大切さを伝えていますが、ご家庭でも声かけをいただけるとありがたいです。

質問２３朝ごはんについては、ほとんどの生徒に習慣が定着しており、家庭の協力に感謝しています。今後も「けんこうの日」や長期休業明けの生活調べを通して、生活習慣の見直しを促していきます。

質問２４食事の好き嫌いについては、教職員の回答からも、給食時に偏食が目立つ様子は見られていません。

質問２５安全な登校については、保護者、地域の皆様の見守りや協力に感謝しています。今後も安全に登校できる環境づくりを継続していきます。

◎自由記述について

体育祭については、毎年多くのご意見をいただいております。特に「徒競走での呼名」については、個人情報保護の観点や競技の円滑な進行から、京都市内の小中学校では放送で個人名を呼ぶことは行っておらず、本校でも今後その予定はありません。前期課程では、事前にレース順や競技の位置などをお知らせしておりますので、そちらをご確認いただければありがたく存じます。また、組体操については、過去に重大な事故が発生したことを受け、全国的に見直しが進んでいます。本校でも安全を第一に考えるとともに、教育課程に沿った運動内容を重視し、現在は実施を見送っております。

体育祭では、生徒の自主性を育むことを目指し、生徒が発達段階に応じて目標や役割を持ち、各ステージで最大限にリーダーシップを発揮できる場面を大切にしています。例えば、現在各団長が中心となって行っている競技中の「応援」では、９年生が主体となって構成を考え、事前の全校体育でも時間を取って練習に取り組んでいます。これは当初、生徒会のもとで各団長を中心に競技の応援をしていたものが、年々進化し、現在の形になったものです。

また、たてわりの種目においては、ステージ練習や全校練習の場面で、上級生がリーダーとなって勝つための作戦を考え、下級生が安心して楽しく練習できるよう、思いやりを持って声をかけ合いながらチームをまとめようとしています。下級生は上級生を頼りにしながら、一生懸命練習に取り組んでいます。今年度の体育祭は６月に開催されましたが、１年の早い時期に、学年やステージ、全校の団結が必要な行事を行うことは、それぞれの学年の今後にとって大変良い機会となりました。

部活動は全国的に地域展開が進められており、本校においても今後の改革推進期間を経て、適切な形での対応を検討してまいります。現時点では、生徒一人一人の技術・体力・意欲を高めることを第一に、より良い活動の場づくりに尽力しております。今後新たな形で実施することとなった場合には、改めてご案内いたしますのでご理解とご協力をよろしくお願いいたします。その他にも、授業中の様子や進路希望に関すること、給食の配分へのご要望、通学路の安全確保についてのご意見をいただいております。これらの声は、生徒の安心・安全な学校生活や、よりよい教育環境づくりに向けた大切な視点として受け止め、今後の改善に活かしてまいります。

◎学校運営協議会より

学校生活を充実させるためには、生活習慣の維持と学習支援は欠かせませんね。高校に入ってから学習で苦勞するということや、睡眠や食事のリズムは学年が上がるほど乱れやすいということも耳にします。生活習慣と学習は将来にも影響するため、学校や保護者は継続的な意識が必要だと思いました。学校行事の精選は、先生方の働き方改革や教育課程の改定など、時代の変化に対応するための取り組みですが、「以前の取組の方がよかった」と評価する保護者や地域の声もあります。行事を減らした、簡素化したという印象だけで終わらないよう、新しい行事運営が子どもたちのどのような成長につながっているのか、具体的な成果や注目ポイントを積極的に発信していくことが望まれます。